

29日自然第45号  
2017年7月21日

名護市長 稲嶺 進 様

公益財団法人 日本自然保護協会  
理事長 亀山 章



### 大浦湾チリビシのアオサンゴ群集の天然記念物指定を求める要望書

日本自然保護協会は辺野古・大浦湾の生物多様性豊かな自然環境の保全に18年前から取り組んでおり、その立場から意見を述べます。

2007年9月に発見された名護市大浦湾のチリビシのアオサンゴ群集は、長さ50m、幅30m、高さ14mに達するもので、単一の種からなるサンゴ群集がこのような規模になるのはこれまで報告例がなく、大変貴重なものです。

2016年の夏に沖縄を襲った高水温等により、大浦湾一帯のサンゴ群集は大きな影響を受けました。チリビシのアオサンゴ群集も白化しましたが、秋には無事にもとの状態に戻りました。

また、毎年春先にチリビシのアオサンゴ群集の下に繁茂する海草のトゲウミヒルモが、今年は繁茂しませんでした。この海草は2015年の春までジュゴンが好んで採餌しに来ていたものです。海草の繁茂を阻んだ原因はわかりません。気候変動の影響と、工事や工事に伴う作業の影響の両者の可能性があります。

琉球列島のサンゴ礁が危機的にあるなかで、チリビシのアオサンゴ群集は世界的にも貴重で普遍的な価値を持ち続けていますが、周辺海域では、なお重大な環境変化が起きているため天然記念物として早期に積極的に保護し、次世代へ引き継ぐべきであると考えます。

2018年は第3回国際サンゴ礁年であり、世界的に気候変動の影響をサンゴ礁が受けていることから、サンゴ礁保全の機運が高まっています。また、今年6月にニューヨークで開催された国連海洋会議においても、海洋環境の回復のための緊急対策が合意され、サンゴ礁の保全や海洋保護区の大切さが確認されました。

以上のことから、チリビシのアオサンゴ群集の天然記念物としての早期指定を求めます。

以上